

ニホンジカの管理の基本：管理目標の設定と捕獲の実行

株式会社 野生動物保護管理事務所
濱崎 伸一郎

講演要旨

ニホンジカ（以下、シカという）は、近年さまざまな要因によって個体数が過剰になり、農林業被害の増加だけでなく自然植生への影響も大きな問題となっている。また、分布も急速に拡大している。平成 25 年に示された「抜本的な鳥獣捕獲強化対策」以降、各地で捕獲を含むさまざまな対策が強化され、その効果が現れ始めている。ここでは、シカの生態、生息状況や被害状況の変化について概説し、生息状況や対策の進捗に応じた今後のシカ管理のポイントについて解説する。

■ シカの生態的特性

シカは、繁殖力が高く、豪雪が少なくなった近年では死亡率も低く、自然増加率は年率約 1.2~1.3 と報告されている。一夫多妻制であることから個体数を減少させるにはメスの捕獲が重要である。また、積雪や捕獲圧の偏りによって季節移動をすることから、広域的かつ戦略的管理が必要な動物である。

■ 適切なシカ管理に向けた課題

「抜本的な鳥獣捕獲強化対策」以降、地域によって生息密度の抑制、被害軽減に効果が見られ始めている。一方、取組の進捗・強度によって地域差も大きくなっており、地域の実情に応じた目標設定・施策の展開が必要とされている。「第二種特定鳥獣管理計画作成のためのガイドライン改訂版」（環境省、2021）では、このような地域差を考慮した管理計画のポイントとして、“順応的管理の実践”、“短周期の PDCA サイクルの重要性”、“生息状況類型区分の評価と目標設定”などが取り上げられている。

■ 広域管理の必要性と目標設定

シカの捕獲圧は、捕獲地へのアクセス、捕獲従事者の偏在などにより偏っており、農地周辺での密度が抑制されている地域でも都道府県境や高標高域では依然として密度が上昇している地域が多い。今後は広域管理の視点が重要となることから、関東山地ニホンジカ広域協議会の取組を例に、広域管理に必要な情報収集、取組を進めるポイントなどについて紹介する。

■ 捕獲を実行する上での考え方・取組

捕獲は、個体群の安定的な維持、農林業被害軽減、生態系への影響軽減の 3 つの視点から進めなければならない。特に全国各地で深刻化している下層植生の衰退を抑制し、回復させることが喫緊の課題であり、その解決には適正密度の評価・誘導、具体的な中・長期的目標設定が必要である。